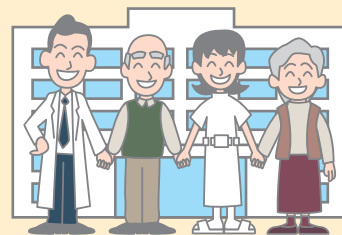


もしもしフォーラム

読者のみなさまともしっかりコミュニケーションをとりたい。
そんな思いを込めた情報ページ「もしもしフォーラム」では、
身近なニュースから心あたたまる話題まで、
みなさまに役立つ情報をご紹介します。



読者からの お便り

今回は、当院への入院経験をきっかけに「病院は怖いところ」というイメージを払拭できたという安東さんからのお便りです。



船橋市在住 安東 美佐子さん

怖くない病院 ～私の入院体験から～

病院はただ怖いところでした。関東病院に巡り合うまでは。今ではそこは、私の人生という旅の母港のような、かけがえのない存在です。時々寄港しては重荷を下ろし、元気をもらってまた海に出ています。

考えが変わったきっかけは、去年の夏の思いがけない入院・手術の体験でした。体の異変に気づいて慌々受診した内視鏡検査の結果は「至急手術」の診断。そのクリニックの院長先生のご紹介で入院したのが、関東病院です。すべてに迅速に対応していただき、体調不良を感じた日から1ヶ月目にはもう開腹手術を終えていました。術後10日で退院の許可をいただき、9月中旬には社会復帰を果たしました。手術後、大腸が少々短くなって食生活に気を遣う場面はあるものの、おかげさまで以前と変わらず仕事をしています。



関東病院はどの病院とも違って、「怖くない病院」でした。国際空港の出発ゲートを思わせる、一階の明るい診療室の列。それ以上に感銘を受けたのは、入院患者と医療スタッフのコミュニケーションの深さです。外科病棟に入院した私は、同室の方々の話の端々に、ドクターへの信頼の絆を感じました。「手術でどんなに遅くなくても、主治医の

先生方が毎日回診してくださるのよ」。入院初日、先生方は消灯時間を過ぎたころに来られ、その夜は見守られている安心感に包まれて熟睡しました。

私がいちばん影響を受けたのは、病院全体にみながる積極的な姿勢です。術後2日目からの歩行訓練で、すぐに歩けるようになりました。同室の方々は、病を得ても「病人」にはならず、病気をコントロールしながら自然な生活を送っている方ばかり。ドクターも背中を押してくださいます。「勤務を非常勤に切り替えた方が？」と質問した私に、主治医の先生は即座に言われました。「こんなことぐらいで否定的になることはありませんよ」。



入院生活を体験して、「仕事だけ」の生き方を考え直すチャンスをいただきました。けれど社会復帰と共に、ストレスまみれの生活習慣や、偏った食生活も戻ってきました。そこで最後に、関東病院のホームページ拡充のお願いを。楽しいレシピ付きの病気別栄養指導のページがあったら、すぐに試してみたい。また病気を克服された方々の体験記なども、読む人のよき学びのよすがになるのではないのでしょうか。